

高校・一般の部 優秀賞

石川 朝子

昭和20年、国民学校一年生も7月に入ると連日の空襲警報発令に授業は早々に打ち切られました。山道を下校する私達を分校の門で見送られる先生の姿が今でも胸に篤くあります。

その頃我が家では夭折した妹の新盆の行事を早朝に済ませ、又6月に収穫した大麦と小麦の土用干しも空襲を掻い潜って仕上げ、供出の準備も整い、家族が一段落していた矢先、空襲警報発令に急いで防空壕に入ると間もなく艦載機の耳を劈く様な一瞬の衝撃音にまるで白昼夢の思いで只々祖母に縋っていました。翌日、警防団の知らせで、その爆音は低空飛行の艦載機が東から現れ、西に進路を取り、二ツ塚峠の木々を爆風で薙ぎ倒しながら飛び去った轟音だと聞きました。後日、その裏山へ近所の人達と父と兄も見に行った話では機体の一部が剥がれ落ち、風防硝子の破片も散乱して、そんな中に転がっていた白い塊が当時食卓から姿を消して久しい食パンだとわかり、それを目にした皆は複雑な気持ちだったと父に後で聞きました。8月15日天皇陛下が終戦の詔書を読み上げられて戦争も終わりました。私はその後、各地の空襲の惨禍や広島、長崎の被爆の実態と沖縄戦を知るにつき、人々の受けた心身の傷、今も生涯の重みになっている悲しみはさぞかしと思います。戦後77年、日本は平和ですが、世界では今、戦争が起きています。戦いで犠牲の子供達の姿を見るのが辛いです。人類の英知が問われている今、国と国との理性で戦争が早く終結する事を祈って止みません。

見上げよと平和の像や原爆忌 (朝子)